

### 第3回 JRS/JCR 医療経済・政策勉強会 概要

日時：2021年10月6日(水) 1800~2000

場所：JRS事務局 (web開催) 参加者 39名

講演：

「がん」に関する社会課題を解決していくために

#### 鈴木美穂 様

(認定NPO法人マギーズ東京共同代表理事、一般社団法人CancerX共同発起人、一般社団法人日本専門医機構理事、元日本テレビ記者・キャスター)

#### ○講演後質疑 概要

(添付：講演資料、鈴木美穂氏より許諾を得て掲載)

##### ・医師に求める資質とは

⇒目の前の患者さんを見て欲しい。ICで理解出来ない患者さんもいるがそのままとなって相談に来る。

就業のことなど(すぐに辞めない)、妊孕性温存の話など極めて重要な事が多い。全てに医療者が対応出来るわけではないが、それらの重要性を理解して診療に当たって欲しい。告知後、全てを放擲してしまう患者さんもいる。そういったときに適切な声がけをするだけでも違う。

##### ・日本医療の質をどう思うか。

⇒患者からみると均てん化されていてよいが、情報が不足している。標準医療などへ情報が乏しく、社会への周知が少ない。医療ともいえない医療がまん延しているが、罰則がない。一方、情報開示は、進行例を扱う医療機関では成績が悪く見えるというようなことから開示が進まないのかという印象もある。

##### ・専門医のあり方について

⇒もっと細分化してもらったほうがわかりやすい。自由標榜性についても、一般の人はわからない。自分のようなジャーナリストであっても知らなかった。きちんと最新情報がアップデートされている医師が「専門医」としてほしい。

・画像診断医としての疑問 (多数の画像を読むことで貢献・裏方として頑張るべきか、患者さんへ直接情報を伝える、表に出て行く(そういう能力を付ける)方向性はどうか。患者さんは、画像をとってもらったら、当然正診されると思っているか)

⇒画像検査を行われたら、基本的に正診されると思っている。ただし、実際に患者となった経験があると、見落としなどがあることは知っている(患者会などでも情報が集まる)。読影数が減るのは大変だが、現在では多職種連携も進んでいるから、病状説明などにおいても、画像に詳しい人が説明してくれる方が、信頼出来ると思う。ただ、聞きたくない患者もいる。Shared decision making が

進んでいるので、今後さらに患者も勉強するようになると思うし、主治医のみでは十分な説明ではない、と感じるようになると思う。

#### ・医療の情報開示の重要性・自由標榜性の問題

⇒専門医取得のメリット、今後の整備について

・専門医の質を高めるためには、欧米のように、一定期間にもっと多くの症例での経験を積むなどの訓練が必要ではないか。

・「がんは放射線治療でなおるのか」、という質問がある。実際は根治できるのに知らない人が多い。市民公開講座は高齢や治療後の人が多いが、実際はもっと必要な年代の人に届けるにはどういった方法がいいか。

⇒Cancer Xなどまさにそうであるが、関心のない人も巻き込まないといけない。著名人を加えるのはそういった点で有効。専門家と経験者だけでは限界がある。ほかにイベントなどでも短時間でも話をするというのは効果的かもしれない。また、多様な「関わりポイント」を作る・多職種の人に関わってもらう。

#### ・乳癌検診について

⇒検査が面倒、怖い、ということもあるが、第1は「自分ごと」に思っていないということ。検査が少々不快でも、社会的に当たり前、という感じになるべき。我慢できないほどの検査ってあるのか？

ピンクリボン運動、は効果があるのか。むしろ逆効果かもしれない。「早期発見」しなかった人が責められている様な感じもある。早期じゃないなら治らない、という印象。「命を粗末にしないで」というような標語もどうか。ただ、検診受けましょうというより、正しい理解が必要。癌との共生といった情報も共有すべきである。スローガンのにはよくない。職場などで当たり前検診を受けるというようにするとよい。

#### ・正しい診療情報の見分け方、「インチキの5箇条」など（高額な根拠のない自費診療の過大広告）

⇒癌に関する教育の重要性

#### ・地域での医療格差・情報格差を改善することが重要と考えるがいかかがか。

⇒地域で専門ではない医師が見ている患者さんからの相談などもある。どこの病院でも標準治療が受けられるようにするのは難しいのか。（たとえばその専門医がいなくても）

若月先生：治療医は絶対数が少ない。ガイドラインで完全にしばってしまうと、実地で適用出来なくなる可能性もある。家庭環境(支援があるか)等でも、受けられる治療と、そうではない治療がある。多診療科で垣根を越えた連携が重要。地域医療に関しては、医師会の力も重要な場合がある。

⇒癌以外の疾患（認知症など）に対しても同様の施設(マギーズ東京のような、医療者も関わり患者

および、ケアラー等にも支援を行う)を望む声がある。外部からは、医療界は、現場からの声を反映させるのが少ない様に見える。トップ同士が話し合う場はあるが。

・民間医療・根拠に乏しい高額な自由診療に関する最近の話題等

以上、多岐にわたる活発な論議が行われた。今後、市民公開講座等や、他の機会における意見交換等について、鈴木氏より賛同を得て、勉強会は終了した。

(了)

# 「がん」に関する社会課題を 解決していくために

認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事  
一般社団法人CancerX 共同発起人  
一般社団法人日本専門医機構 理事  
元日本テレビ記者・キャスター

鈴木美穂



# ≡ わたしについて

認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事  
一般社団法人CancerX 共同発起人・理事  
一般社団法人日本専門医機構 理事  
元日本テレビ 記者・キャスター

厚労省・都庁・PMDAなどの省庁や国の関連組織で「がんとの共生」  
「上手な医療のかかり方」「人生の最終段階の医療」「オンライン診療」などの  
審議会や検討会の委員など公職多数

## 【著書】

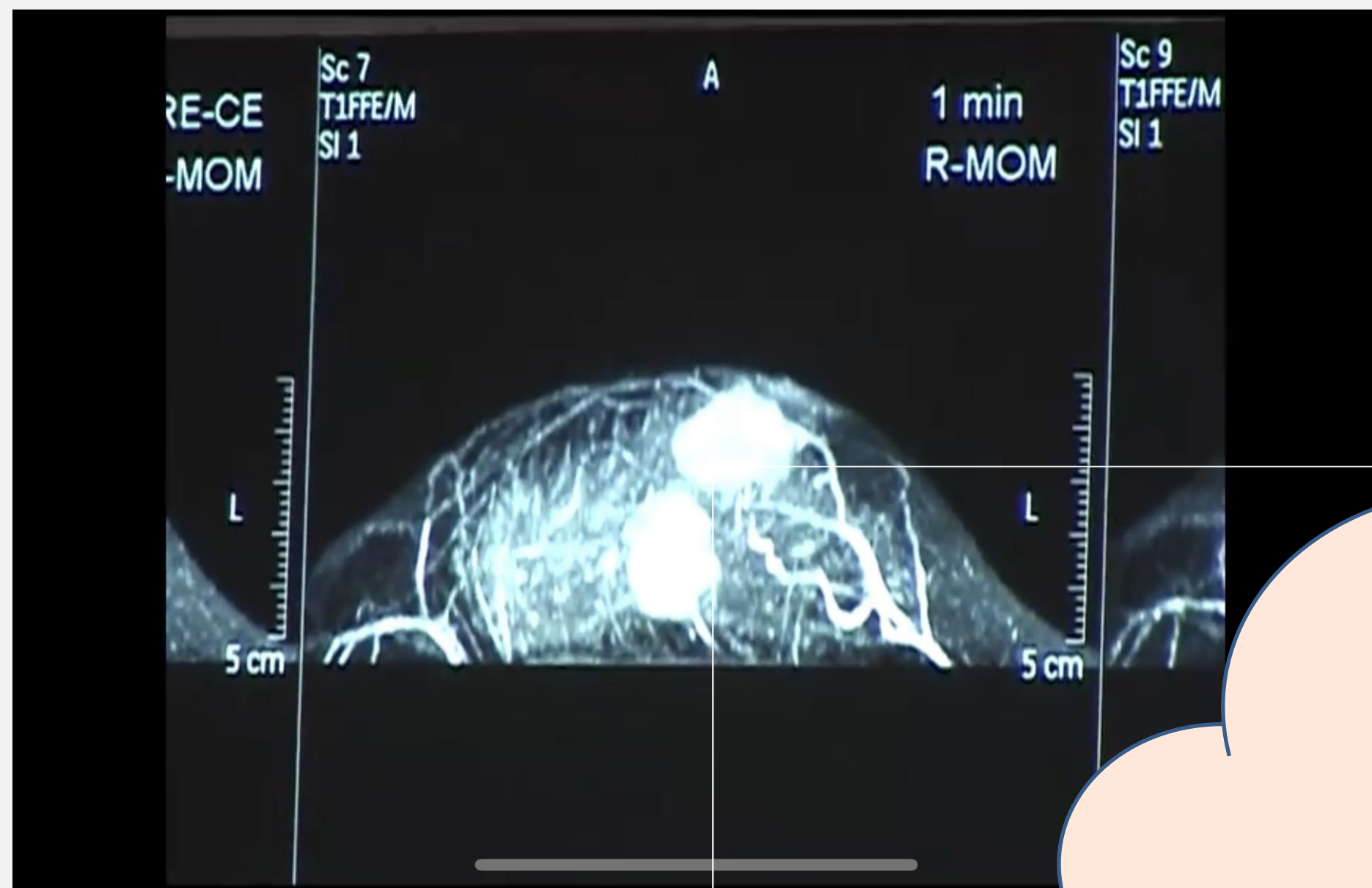
「もしすべてのことに意味があるなら-がんがわたしに教えてくれたこと  
(ダイヤモンド社)」

## 【受賞歴】

- ・ マギーズ東京で「日経WOMAN OF THE YEARチーム賞」
- ・ 日テレ時代に自身の闘病も描いて企画・制作したドキュメンタリー番組  
「Cancer Gift-がんって、不幸ですか？」で「日本医学ジャーナリスト協会賞優秀賞」

2008年  
24歳のとき





手術  
抗がん剤治療  
放射線治療  
分子標的薬  
ホルモン治療

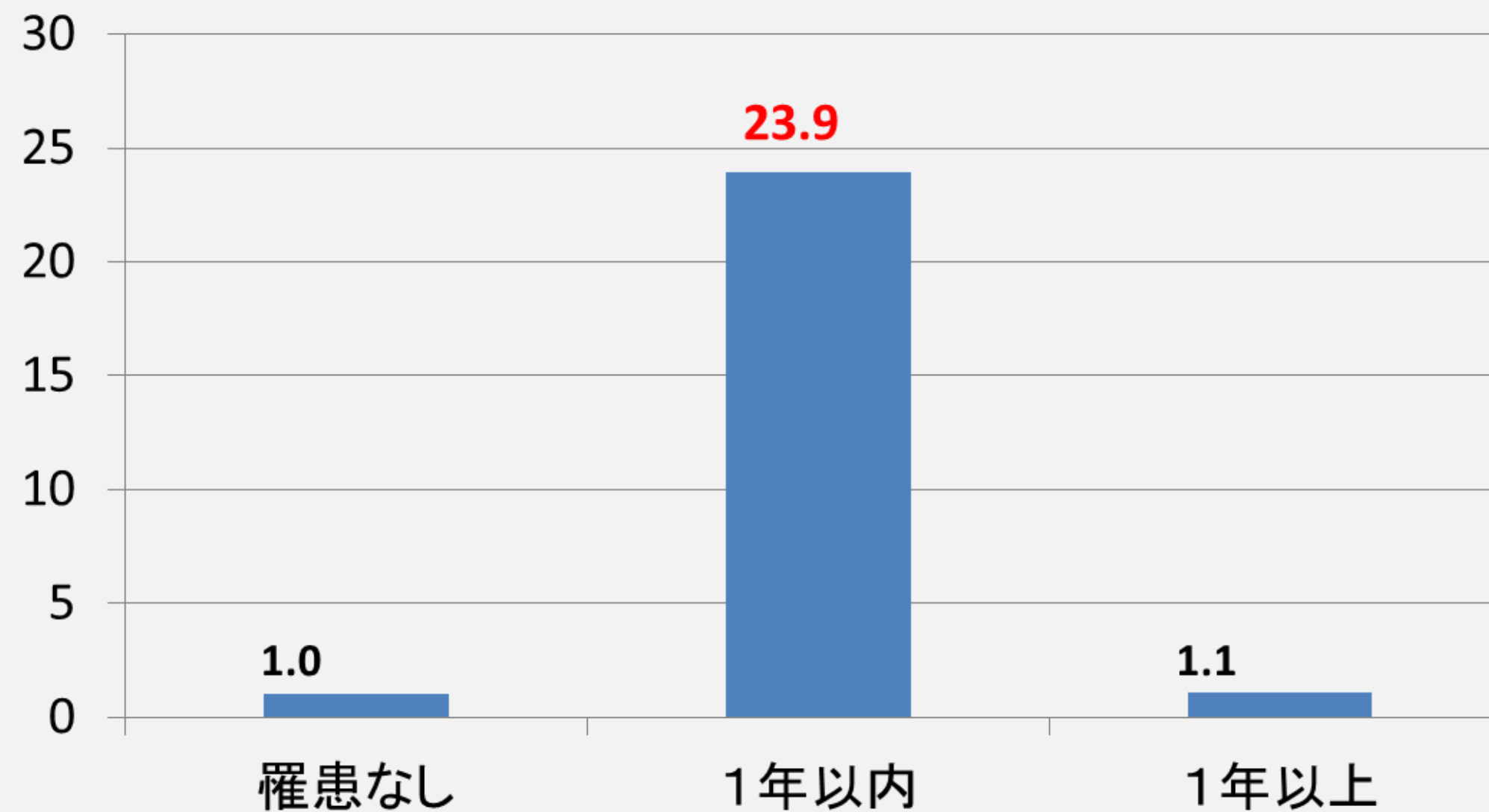


絶望感・孤独感・不信感・申し訳なさ...



がん告知による精神的なダメージは大きく、  
がん診断から1年以内の自殺のリスクは、一般の23.9倍。

### がん診断後の自殺



国立がん研究センターがん予防検診研究センター予防検診グループ多目的コホート研究 (平成26年)



もし、いつか元気になることができれば、  
今の自分のように  
苦しい思いをしている人たちのためになりたい・・・

8ヶ月の休職後、復帰



# 報道記者として



■ トップ ■ 注目 ■ 社会 ■ 政治 ■ 経済 ■ 国際 ■ スポーツ ■ エンタニュース ■ 特集



## 進歩する抗がん剤治療「腫瘍内科」

< 2014年6月16日 21:47 >

いいね! 308 ツイート 15 B! 0

動画を再生

このニュースをメールで伝える

このニュースをブログに書く

<http://www.r> コピー

アメリカのハーバード大学の病院、マセッツ総合病院が毎年がんと闘った100名に「ザ・ワンハンドレッド」という表彰状を授与する。今年、初めて日本人医師が選ばれた。

今年、初めて日本人医師として選ばれ、日本臨床腫瘍学会・西條長宏医師が選ばれた。



がんを経験して欲しかったものの  
足りないと感じたものを



若年性がん患者団体 **STAND UP!!**



認定NPO法人マギーズ東京



一般社団法人CancerX



若年性がん患者を応援するフリーペーパー発行  
毎号3万部を全国のがん拠点病院で配布

# “AYA世代のがん”の課題








**IEEPO**  
Zurich, Swiss

March 2013

Congratulations!!





Cue!  




Cue !  
~Congratulations on your  
Unique Experience  
がん患者へのワークショップを提供



Maggie's Cancer  
Caring Centres!!

March 3-4, 2014  
IEEPO @Wien, Austria



患者や家族、その友人が、孤独で戸惑い不安な時

- ・ 安心して訪ねられる、明るく癒やされる空間で、
- ・ 医療知識が豊富で友人のようなサポートスタッフに
- ・ 自分の戸惑いや疑問をよく聴いてもらい、
- ・ 一緒に考えて、病気に向き合う力を取り戻し、
- ・ 再び、自分で歩みだせる

新しい相談支援の場



# Maggie Jencks

“最も大切なことは、  
死の恐怖の中にあっても、生きる喜びを失わないこと。”  
”Most of all, don't lose the joy of living in the fear of dying.”



病気であっても  
患者ではなくひとりの人間に戻れる  
家庭的な「居場所」と、  
医学的な知識が豊富で  
友人のように話ができる「人」が欲しい

これだ・・・！！

2014年4月、「マギーズ東京」プロジェクト始動。

# 秋山正子

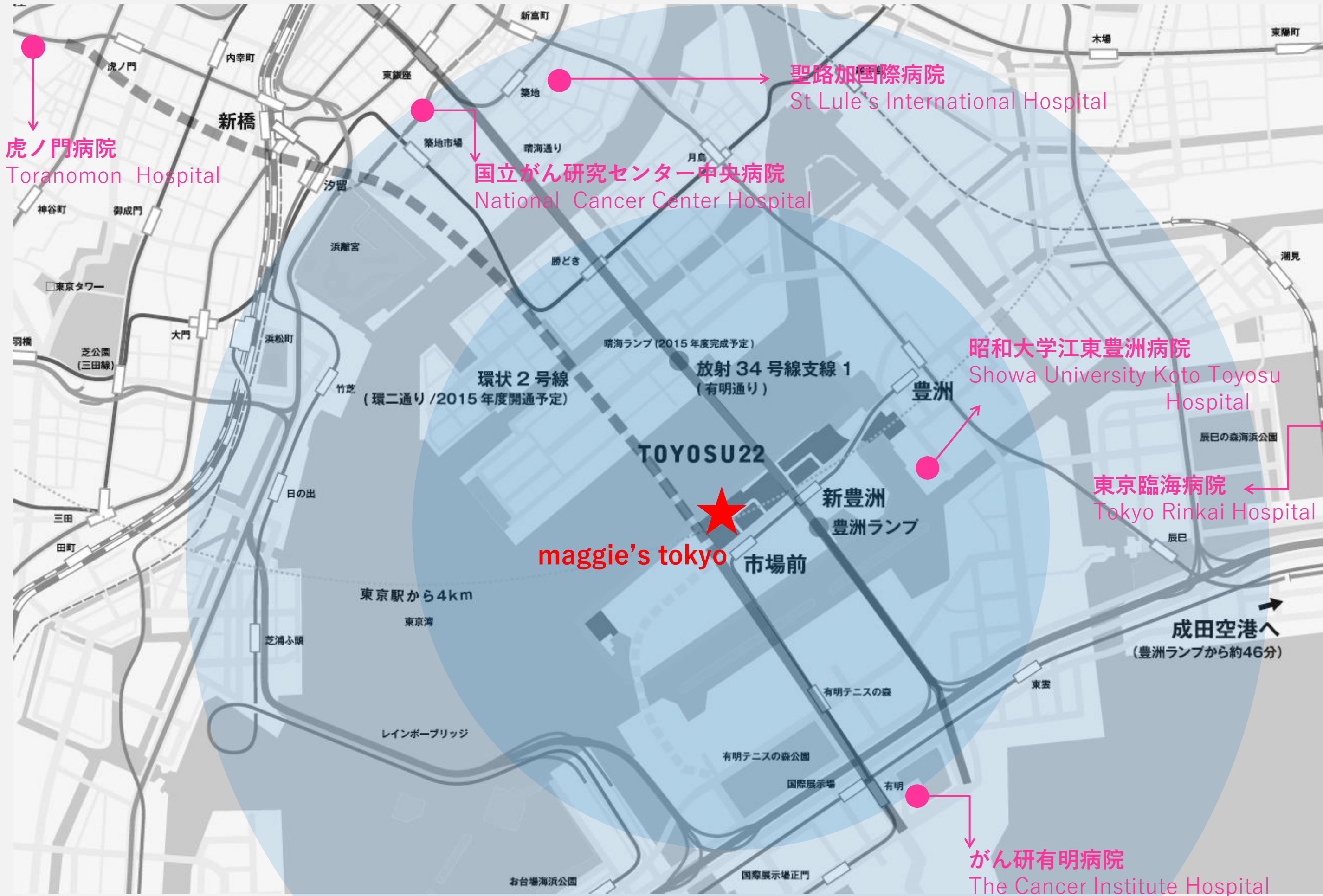


在宅ケアの第一線で活躍





# 複数のがん診療拠点病院に近接する立地



## がん患者が自分の力を取り戻すための場マギーズセンターを東京に

+気になるリストに追加

ホーム

新着情報 45

応援コメント一覧 1100



### maggie's tokyo 秋山正子&鈴木美穂

20年の看護師経験と姉のがん闘病から「暮らしの保健室」を立ち上げた秋山と、自らのがん経験を活かして患者支援活動を行う鈴木を中心に活動中。

現在の達成金額	<b>22,068,000</b> 円
目標金額	<b>7,000,000</b> 円
スポンサー募集終了まで	終了しました
支援した人数	<b>1,100</b> 人

✓ **プロジェクトが成立しました!**

このプロジェクトは 2014年11月22日(土) に成立しました。



2016年10月  
マギーズ東京オープン



# マギーズセンターの柱

## 1. 建築・環境

ほっとくつろぎ自分を取り戻せる居心地の良さ

### マギーズセンター建築概要

- ・ 自然光が入って明るい
- ・ 安全な（中）庭がある
- ・ 空間はオープンである
- ・ スタッフルームからすべて見える
- ・ オープンキッチンがある
- ・ セラピー用の個室がある
- ・ 暖炉がある、水槽がある
- ・ 一人になれるトイレがある
- ・ 280㎡（84坪）程度
- ・ 建築デザインは自由

## 2. ヒューマンサポート

医療知識のある友人のような医療の専門家のかかわり

### ひとりひとりに寄り添う

話したいことがあれば、そっと寄り添い、ゆっくり話に耳を傾ける

### 対等な立場

医療者ではなく友人のように

### 自分らしさをエンパワメント

その人が自分の力に気づき、また歩めるように



# がんにまつわる相談が各方面から…



患者さんからは、

「もっとこんなサポートがあったら楽になるのに・・・」

「もっとこんなサービスがあったらいいな」

「もっとこんな風に対応してもらえたら嬉しい」

官公庁や医療施設や医療者からは、

「もっと理解してもらいたい」

「怪しいものからもっと患者さんを守りたい」

「もっと知ってもらうにはどうしたらいいか」

「もっと人に来てもらう方法はないか」

企業からは、

「もっと患者さんのニーズを知りたい」

「もっと患者さんにサービスを知ってもらいたい」

と、「もっと・・・」がうずまいていました。

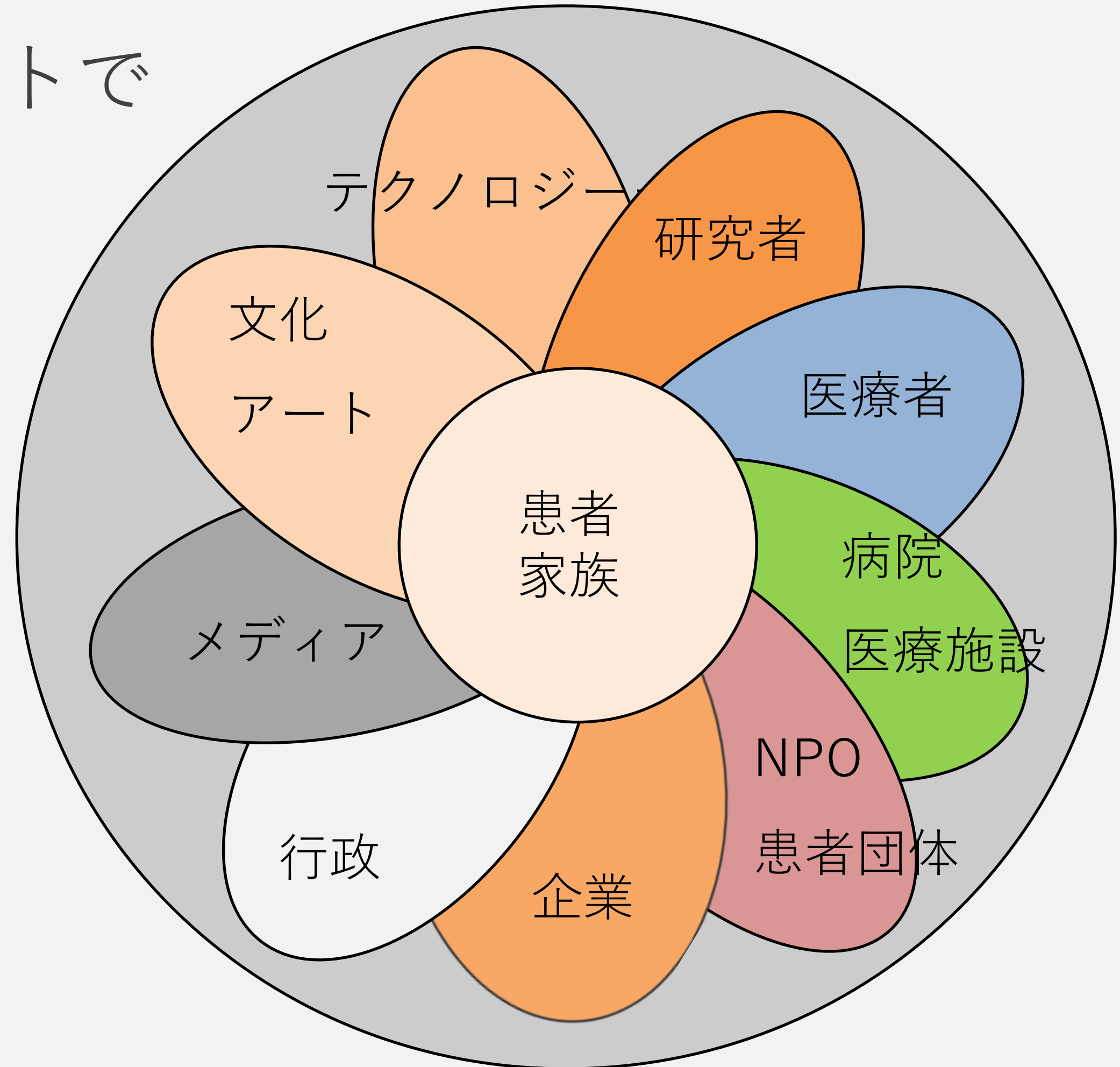
この皆さんが出会って対話できれば

解決できる「もっと・・・」がたくさんあるはず！！

# コレクティブ・インパクトで 課題解決へ

研究者 × 医療従事者 × 病院・医療施設  
× NPO × 患者団体 × 企業 × 行政 × メディア  
× 文化 × アート × テクノロジー・・・

各業界が縦割りでバラバラで動いていて  
課題の共有・解決が進まない。  
→課題発見から解決までつなげたい。





CONFERENCE OF CREATIVE CONNECTING IMPACT

# CancerX Summit 2019

がんと言われても動揺しない社会へ

3rd Feb. Sun 2019 10:00 AM - 9:00 PM





CancerX Summit 2019



# がんを取り巻く課題・テーマ

- がん治療の開発・臨床試験
- がんとテクノロジー/AI/VR
- がんと医療機器
- がん予防
- がん検診
- がん情報
- がんとWeb
- AYA世代のがん
- がんと家族
- がんと就労
- がんと子ども
- がんとコミュニケーション
- がん教育
- がんとゲノム医療
- がんと死・看取り
- がんと妊孕性・生殖医療
- がんと食事・栄養
- がんと心
- がんと運動
- がん保険
- がんと心理
- がんと在宅医療
- がんと住宅
- がんとローン
- がんと美容・ファッション
- がんとエンターテインメント
- がんと旅行
- がんとファンドレイズ
- がんとデザイン
- がんとコミュニティ
- がんとモビリティ
- がんと新型コロナウイルス



「患者」である前に、「人」である。

より良い医療のために  
できる人が、できることを。

もし  
すべての  
ことに  
意味が  
あるなら

がんが  
わたしに  
教えて  
くれたこと

鈴木美穂  
（マ）と代表取締役

24歳で  
乳がん発覚……  
ただ泣くことしか  
できなかった  
あの日のわたしに  
伝えたいこと

「日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2017」受賞  
日本テレビ系「スッキリ」「情報ライブ ミヤネ屋」元キャスター  
ダイヤモンド社